



養護教諭養成教育検討委員会



## 「養護教諭養成教育検討委員会」

### 1. 構成員

#### 1) 委員

荒木田美香子（委員長、際医療福祉大学）  
池添志乃（高知県立大学）、亀崎路子（杏林大学）、  
津島ひろ江（関西福祉大学）、櫻田淳（埼玉県立大学）

#### 2) 協力者： なし

### 2. 趣旨

養護教諭一種養成課程を有する大学 125 大学のうち、看護系大学が 78 校（平成 25 年現在）となっている。また、平成 28 年度中に教員養成カリキュラムの改変、平成 30 年の各大学のカリキュラム改変、平成 31 年から新課程が行われることとなっている。平成 26・27 年に引き続き、臨時委員会として、看護能力を基盤とした養護教諭の養成カリキュラムの検討、養成教育の質の保障、改正カリキュラムに関する情報提供、養護教諭の養成大学のネットワークの構築を行う。

### 3. 活動経過

- 1) 4 回の委員会を開催し、以下の事項を検討した。
- 2) 平成 28 年度に作成した看護系大学で養成する養護教諭のコンピテンシー（以下養護教諭のコアコンピテンシー）、看護系大学のコアカリキュラムの動き、教育職員免許法の改正、教員のコアカリキュラムの作成の動きを確認し、養護教諭のコアコンピテンシーに基づく、コアカリキュラムの検討を行った。
- 3) 平成 29 年 1 月 6 に日本教育会館において、JANPU の養護教諭一種の認定課程を持つ 78 大学を対象にワークショップを行った。参加者数 72 名（養護教諭一種免許課程を保有する 78 大中 67 大学 85.8% の参加）であった。ワークショップでは看護系大学の看護師のコアカリキュラム及び養護教諭養成教育に関する文部科学省などの動きについて情報提供すると共に、養護教諭のコアカリキュラム案を提案・説明し意見交換を行った。参加者は養護教諭課程の科目を担当している教員が中心であり、自大学における看護師などの養成教育内容をもっとよく知ったうえで、養護教諭養成カリキュラムを検討しなければいけないなどの振り返りに関する意見も見られ、有意義な会議であった。
- 4) ワークショップで出された意見をもとに、コアカリキュラム案の再検討を行った。
- 5) 養護教諭関係団体連絡会<sup>\*注1</sup>に参加し、文部科学省（健康教育・食育課及び教職員課）との養護教諭養成カリキュラムの見直しに関する検討を行った（文部科学省の見直し省令案は資料 2）

平成 27 年度の中央教育審議会答申による養護教諭養成カリキュラムの変更を見据え、「養護教諭の資質能力向上を願う全国組織団体の連携と協力により、養護教諭の養成・採用・研修等に関する施策の提案と実現に向けた取り組みを行うこと」を目的とする団体である。全国養護教諭連絡協議会、日本養護教諭養成大学協議会、日本教育大学協会全国養護部門、全国私立大学・短期大学(部)養護教諭養成課程研究会、日本養護教諭教育学会、日本健康相談活動学会を発起団体とし平成 27 年 11 月に発足した。

### 4. 今後の課題

養護教諭のコアカリキュラム案をさらに見直して、会員校に調査を行う予定である。看護系大学の看護師のコアカリキュラムの内容を見すえつつ、養護教諭のコアカリキュラムを 2017 年夏ごろに提案したい。また、それらをもとに、養護教諭一種の認定課程を持つ会員校を対象にワークショップを行い、情報を共有する。さらに教育内容例を提示できるようにしたい。また、会員校に教職課程の再認定に関する情報提供を行う。

### 5. 資料

- 1) 看護系大学で育成する養護教諭のコアカリキュラム案（平成 29 年度に継続検討）
- 2) 文部科学省の養護教諭養成カリキュラムの見直し省令案

資料1 看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシーと学修目標

\* 卒業時点の到達度 4. 単独でできる 3. 指導の下で実施できる 2. 学内演習などで実施できる 1. 知識としてわかる  
平成28年3月時点の「看護系大学の「看護教諭のコンピテンシー」をもとに委員会で行動目標・教育内容を検討した。  
行動目標でブロック体(太字)で記載したものは養護教諭に独自のものである。通常字体のものは看護師と共通の行動目標である。  
学修目標を整理・精錬する必要がある。

2017.02.07時点

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー		学修目標	教育内容
I 教員としての養護教諭の実践を支える基本的能力			
卒業時点の到達度			
1	養護教諭の専門性と基本的職務を説明することができる	<input type="checkbox"/> 養護教諭の歴史的変遷と制度の沿革を説明できる。 <input type="checkbox"/> 養護の概念を説明できる。 <input type="checkbox"/> 教育職員としての養護教諭の専門性を理解し、専門職としての基本的責務を説明できる。	<input type="checkbox"/> 養護教諭の歴史 <input type="checkbox"/> 養護教諭制度 <input type="checkbox"/> 養護の本質と目標 <input type="checkbox"/> 子どもの健康課題 <input type="checkbox"/> 学校の特性(校種、規模)に応じた実践 <input type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 学校救急対応 <input type="checkbox"/> 保健指導 <input type="checkbox"/> 健康相談活動
2	学校教育の理念と学校保健の目標を説明することができる	<input type="checkbox"/> 学校教育の目的及び目標について理解し、学校保健の関係を説明できる。 <input type="checkbox"/> 教育課程と養護教諭活動を説明できる。 <input type="checkbox"/> 子どもの発達の特徴、子どもの可能性について理解し説明できる。 <input type="checkbox"/> 子どもを伸展させる教師の役割について説明ができる。 <input type="checkbox"/> 健康の概念について、自分の考えを説明できる。	<input type="checkbox"/> 教育の目的目標 <input type="checkbox"/> 教育関連法規 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 学校教育に果たす学校保健の役割 <input type="checkbox"/> 学校保健安全法 <input type="checkbox"/> 子どもへの理解 <input type="checkbox"/> ヘルスプロモーション
3	学校経営方針および組織の経営方針を設定する意義を説明することができる	<input type="checkbox"/> 学校経営方針と学校組織の関連が説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校の組織の運営について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校の校務分掌と役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学年経営・学級経営と養護活動との関係性について説明できる。 <input type="checkbox"/> 教育課程と養護活動について説明できる。	<input type="checkbox"/> 学校教育の理念目標 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 学校経営、学年経営、学級経営 <input type="checkbox"/> 学校組織 <input type="checkbox"/> 学校校務分掌 <input type="checkbox"/> 学校保健に関する組織
4	学校保健の構造を説明することができる	<input type="checkbox"/> 学校保健の意義、構造、制度、関連法規について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校保健と地域保健の連携を説明できる。	<input type="checkbox"/> 学校保健安全法 <input type="checkbox"/> 学校保健の構造 <input type="checkbox"/> 学校保健活動 <input type="checkbox"/> 学校保健関係職員 <input type="checkbox"/> 地域の関係機関と連携 <input type="checkbox"/> 学校保健計画 <input type="checkbox"/> 家庭、地域の保健との連携
5	学校安全の構造を説明することができる	<input type="checkbox"/> 学校安全の意義や構造、制度、関連法規について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校安全と地域の安全を説明できる。	<input type="checkbox"/> 学校保健安全法 <input type="checkbox"/> 学校安全の構造 <input type="checkbox"/> 学校安全活動 <input type="checkbox"/> 学校保健関係職員 <input type="checkbox"/> 地域との連携 <input type="checkbox"/> 学校安全計画 <input type="checkbox"/> 家庭、地域の安全と連携 <input type="checkbox"/> 地域の災害対策、地域の防災計画

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
6 学校経営計画、学校保健計画、学校安全計画、保健室経営計画の関係性を説明することができる	4	<input type="checkbox"/> 学校経営計画のもとに立案された学校保健計画、学校安全計画、保健室経営計画の関係性について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校経営計画、学校保健計画、学校安全計画、保健室経営計画の立案・実施・評価方法について説明できる。	<input type="checkbox"/> 学校経営 <input type="checkbox"/> 学校保健計画 <input type="checkbox"/> 学校安全計画 <input type="checkbox"/> 保健室経営 <input type="checkbox"/> 学校組織マネジメント、コーディネート <input type="checkbox"/> 地域関係機関との連携
7 保健室経営計画の立案、実施、評価の方法を説明することができる	4	<input type="checkbox"/> 保健室経営の意義を理解し、立案、実施、評価方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 保健室に必要な施設設備を説明できる。	<input type="checkbox"/> 保健室経営の意義 <input type="checkbox"/> 保健室の役割と機能 <input type="checkbox"/> 保健室経営計画と実施、評価 <input type="checkbox"/> 保健室の施設・設備
II ヒューマンケアの基本に関する実践能力			
8 子どもの権利を擁護する	4	<input type="checkbox"/> 子どもの成長、発達に必要な基本的権利について説明できる。 <input type="checkbox"/> 学校において子どもの権利の擁護をする場合と方法について説明できる。	<input type="checkbox"/> 子どもの基本的権利 <input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護 <input type="checkbox"/> 学校教育の理念・目標と養護 <input type="checkbox"/> 教育課程と養護 <input type="checkbox"/> 特別な支援が必要な子どもへの配慮
9 保護者の権利と義務について理解する	3	<input type="checkbox"/> 保護者の権利と義務について説明できる <input type="checkbox"/> 保護者との連携・協働する際に配慮すべき保護者の権利と義務を説明できる	<input type="checkbox"/> 家庭教育の意義 <input type="checkbox"/> 保護者の権利と義務 <input type="checkbox"/> 保護者との連携・協働
10 子どもの自己実現を支援する	3	<input type="checkbox"/> 子どもの発達過程と健康問題 <input type="checkbox"/> 子どもの発達段階と個人差の理解 <input type="checkbox"/> 子どもの生理的変化と病的変化の理解 <input type="checkbox"/> 特別な支援が必要な子どもの特性の理解 <input type="checkbox"/> 学校における子どもの理解 <input type="checkbox"/> 社会的存在としての子ども <input type="checkbox"/> 子ども理解と養護 <input type="checkbox"/> 自己実現 <input type="checkbox"/> セルフケア能力 <input type="checkbox"/> 自己教育力 <input type="checkbox"/> 共生社会と生き生き	<input type="checkbox"/> 子どもの発達過程と健康問題 <input type="checkbox"/> 子どもの発達段階と個人差の理解 <input type="checkbox"/> 子どもの生理的変化と病的変化の理解 <input type="checkbox"/> 特別な支援が必要な子どもの特性の理解 <input type="checkbox"/> 学校における子どもの理解 <input type="checkbox"/> 社会的存在としての子ども <input type="checkbox"/> 子ども理解と養護 <input type="checkbox"/> 自己実現 <input type="checkbox"/> セルフケア能力 <input type="checkbox"/> 自己教育力 <input type="checkbox"/> 共生社会と生き生き
13 実施する支援について根拠と意義を説明できる	3	<input type="checkbox"/> 個別に対して実施する学校保健活動および養護実践について根拠と意義を説明できる <input type="checkbox"/> 集団に対して実施する学校保健活動および養護実践について根拠と意義を説明できる	<input type="checkbox"/> 学校アセスメント <input type="checkbox"/> 学校保健活動の意義 <input type="checkbox"/> 養護実践の意義と方法 <input type="checkbox"/> 養護教諭の専門性 <input type="checkbox"/> 養護教諭の役割・機能 <input type="checkbox"/> 保健室の機能 <input type="checkbox"/> 学校保健組織活動の意義 <input type="checkbox"/> 学校・家庭・地域との連携・協働の意義
11 子どもや保護者が意思決定できるように適切な情報提供をする	3	<input type="checkbox"/> 子どもの発達、健康状態を把握したうえで、子どもの意思決定を支援する情報を提供することができる <input type="checkbox"/> 保護者の能力、家庭状況を把握したうえで、保護者の意思決定を支援する情報を提供することができる	<input type="checkbox"/> 疾病や障害のある子どもの理解 <input type="checkbox"/> 子どもとのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 保健指導・保健学習 <input type="checkbox"/> 育児能力のアセスメント
12 子どもや保護者が健康課題に、主体的に取り組めるよう支援する	3	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者が健康課題に主体的に取り組むために必要な支援を説明することができる	<input type="checkbox"/> 疾病や障害のある子どもの理解 <input type="checkbox"/> 子どもとのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 保健指導・保健学習 <input type="checkbox"/> 育児能力のアセスメント

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
24	3	□子どもの自己肯定感を育む必要性と支援を説明できる	<input type="checkbox"/> 自尊心 <input type="checkbox"/> 自己肯定感 <input type="checkbox"/> 自己効力感 <input type="checkbox"/> アイデンティティ
14	1	□子どもの家庭環境を把握して保護者との信頼関係を築く	<input type="checkbox"/> 小児保健 <input type="checkbox"/> 精神保健 <input type="checkbox"/> 地域保健 <input type="checkbox"/> 児童福祉
15	3	□教職員・関係機関・関係職種との信頼関係を築く	<input type="checkbox"/> 社会保障制度と支援の仕組み
<b>Ⅲ 根拠に基づき個別・集団への支援を計画的に実践する能力</b>			
16	4	健康管理や疾病管理に関する子ども（子ども達）の知識を把握する	<input type="checkbox"/> フジカルアセスメントに基づいて、子どももの正常と異常の判断ができる <input type="checkbox"/> 子どももの訴えや症状から健康課題や緊急度、重症度を推論できる <input type="checkbox"/> 発達段階に合わせた症状や疾病への認識を確認する方法を説明できる <input type="checkbox"/> 子どももの健康管理能力をアセスメントするための学校生活における観察点を挙げることができる
17	3	健康管理や疾病管理に関する保護者の知識を把握する	<input type="checkbox"/> 正常な発育・発達 <input type="checkbox"/> 各発達段階に発生しやすい疾病とその症状 <input type="checkbox"/> 各校種で発生しやすい負傷とその症状 <input type="checkbox"/> フジカルアセスメント
18	3	家庭環境および保護者の健康管理や疾病管理に関する能力を把握する	<input type="checkbox"/> 保護者とのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 子どももの発達段階に応じたコミュニケーション <input type="checkbox"/> 子どももの家庭生活 <input type="checkbox"/> 保護者の育児能力
19	3	子どもたちがより良い健康状態を保つために必要な総合的支援計画を立案する	<input type="checkbox"/> 正常な発育・発達 <input type="checkbox"/> 各発達段階に発生しやすい疾病とその症状 <input type="checkbox"/> 各校種で発生しやすい負傷とその症状 <input type="checkbox"/> フジカルアセスメント <input type="checkbox"/> 生活環境としての学校 <input type="checkbox"/> 学習環境としての学校 <input type="checkbox"/> 学校におけるヘルスプロモーションの展開 <input type="checkbox"/> 優先度の決定 <input type="checkbox"/> 学校の委員会、校務組織 <input type="checkbox"/> 計画の策定
		<input type="checkbox"/> 子どももの健康状態を心理、身体、社会的側面からアセスメントするポイントを列挙することができる。 <input type="checkbox"/> 子どももの発達段階を考慮した心身の健康課題を挙げることができる。 <input type="checkbox"/> 集団としての健康状態をアセスメントするポイントを列挙できる。 <input type="checkbox"/> 子どももの発達段階に応じた修得させせるセルフケア能力を挙げることができる。 <input type="checkbox"/> 健康課題に対する学校における支援の優先度決定のための考え方を挙げることができる。 <input type="checkbox"/> 健康課題を改善するために適切な改善策を列挙することができる。 <input type="checkbox"/> 改善策を学校内で実施するために必要な手順や手続き、委員会組織などについて説明することができる。 <input type="checkbox"/> 計画に含めるべき項目を列挙することができる。	

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達速度	学修目標	教育内容
20 子ども（子ども達）の心身の健康状態を観察して、支援の優先順位を判断する	4	<input type="checkbox"/> 子どもの健康課題に応じた支援方法を列挙できる <input type="checkbox"/> 子どもも健康課題に応じた支援方法を選択できる <input type="checkbox"/> 支援方法の予想される効果、実施妥当性を考慮し、支援を選択できる <input type="checkbox"/> 学校及び家庭で支援が実施できるように調整するポイントを説明できる	<input type="checkbox"/> 日常生活援助技術（食事、睡眠、排泄、活動、清潔） <input type="checkbox"/> 呼吸・循環を整える技術 <input type="checkbox"/> 創傷管理技術 <input type="checkbox"/> 与薬の技術 <input type="checkbox"/> 救命救急処置技術 <input type="checkbox"/> 症状・生体機能管理技術 <input type="checkbox"/> 感染症の技術 <input type="checkbox"/> 感染予防の技術 <input type="checkbox"/> 安全・事故防止の技術 <input type="checkbox"/> 日常生活習慣の確立に関する援助 <input type="checkbox"/> セルフケア向上の援助技術 <input type="checkbox"/> 自立支援の援助技術 <input type="checkbox"/> 療養に関する相談 <input type="checkbox"/> 健康教育を促進する技術 <input type="checkbox"/> 行動変容を促進する技術 <input type="checkbox"/> 危機介入 <input type="checkbox"/> 人的・物理的環境調整の技術 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用
21 看護学、教育学、医学、疫学、保健学、心理学などの知識を基盤にして保健指導を行う	3	<input type="checkbox"/> 健康課題に応じ、エビデンスに基づいた保健指導の内容を選択できる。 <input type="checkbox"/> 発達段階に応じた保健指導の展開方法を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 学習指導要領などとの関係性を考慮して、保健指導の内容を選択できる。	
22 保護者の健康状態や地域実態に適切な保健教育を計画、実施、評価する	3	<input type="checkbox"/> 地域の生活・医療・保健・保健の状況について特徴を説明できる。 <input type="checkbox"/> 保健教育の計画に際して、考慮すべき家庭環境や地域の実態を挙げることができる。 <input type="checkbox"/> 個別の保健指導を行う際に、配慮すべき保護者の健康状態についてあげることができる。 <input type="checkbox"/> 保健教育の計画について評価の観点を挙げることができる。	<input type="checkbox"/> 地域の歴史・文化と生活 <input type="checkbox"/> 地域の環境 <input type="checkbox"/> 地域の社会経済構造 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉制度 <input type="checkbox"/> 公衆衛生の概念 <input type="checkbox"/> 地域の健康課題 <input type="checkbox"/> 健康指標の動向（人口動態・疾病構造・受療状況他） <input type="checkbox"/> 地域の健康に関する情報（母子保健、精神保健、感染症、生活習慣病、がん、難病他） <input type="checkbox"/> 地域の人の健康ニーズ <input type="checkbox"/> 保健行動・疾病対処行動 <input type="checkbox"/> 学校保健 <input type="checkbox"/> 産業保健 <input type="checkbox"/> 社会資源の種類と生活上の問題 <input type="checkbox"/> 家族役割、家族の発達
23 支援に対する子ども（子ども達）や保護者の反応を把握し、PDCAサイクルを展開する（29と統合）	3	<input type="checkbox"/> 子ども、保護者、教職員の反応を把握するための評価方法を列挙できる <input type="checkbox"/> 目的や、対象を考慮して、評価方法を選択できる <input type="checkbox"/> 評価内容を踏まえて次の計画に反映させるための方法を説明できる <input type="checkbox"/> 評価や計画の真直しに際して、学校内の合意を得る方法を説明できる	<input type="checkbox"/> 支援の効果 <input type="checkbox"/> 評価方法 <input type="checkbox"/> インタビュー、アンケート、観察法 <input type="checkbox"/> 会議や検討会の目的と運営
25 子ども（子ども達）の発達段階に応じた心身の発育発達を促す支援を行う	3	19に統合	
26 発達段階に応じたセルフケア能力を育成する	3	19に統合	

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
27 子ども、保護者、教職員が活用できる社会資源や協働できる機関・人材について情報提供する	1	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>健康増進機関、保健機関、医療機関、教育相談機関、NP0などの民間支援機関などの役割や専門職について説明することができる</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題に応じた社会資源を選択することができる</li> <li><input type="checkbox"/>子ども、保護者、教職員に情報提供するための留意事項を挙げることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>公的社会資源</li> <li><input type="checkbox"/>民間で活用できる社会資源</li> <li><input type="checkbox"/>社会資源の活用実態・活用条件・法的根拠</li> </ul>
28 学校周辺の地域性、文化、教育・医療環境を把握して支援に活かす	3	22に統合	
29 子ども（子ども達）の支援と、保護者の支援を必要時間連させて支援計画を立案する	1	19, 23に統合	
<b>IV 特定の健康課題に対応する実践能力</b>			
30 生活習慣の確立に向けて、保護者を通して子ども（子ども達）への働きかけをする	3	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>発達段階に応じた適切な生活習慣を説明できる</li> <li><input type="checkbox"/>生活習慣と健康課題の関連、疾病・障害が生活習慣に及ぼす影響について説明できる。</li> <li><input type="checkbox"/>子どもと保護者の状況を判断し、保護者に働きかける方法を選択できる</li> <li><input type="checkbox"/>保護者に働きかける際に、学校内での調整方法が説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>発達段階</li> <li><input type="checkbox"/>生活習慣</li> <li><input type="checkbox"/>生活習慣と疾病</li> <li><input type="checkbox"/>日常生活習慣の確立に関わる援助技術・セルフケア向上の援助技術</li> <li><input type="checkbox"/>学校内での調整</li> </ul>
31 子どもが、自らの健康課題を認識し、主体的に取り組んでいるかどうかを把握する	4	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>子供が健康課題を把握しているかどうかのアセスメントの方法を説明できる</li> <li><input type="checkbox"/>子供が日常生活や学校生活の中で興味を持っていていいることを挙げる事ができる</li> <li><input type="checkbox"/>子供の健康行動を促進する方法を列挙できる</li> <li><input type="checkbox"/>子供の主体的な健康課題への取組に向けた援助技術を理解し、説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>子供の健康課題</li> <li><input type="checkbox"/>子供の健康課題に対する認識</li> <li><input type="checkbox"/>健康行動を促進する援助技術</li> <li><input type="checkbox"/>主体的な健康課題への取組を促す援助技術</li> </ul>
33 経時的な客観的・主観的データを分析して健康課題を把握する	3	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>健康課題をアセスメントするための客観的データを挙げる事ができる</li> <li><input type="checkbox"/>上記の客観的データをアセスメントできる</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題をアセスメントするための主観的データを挙げる事ができる</li> <li><input type="checkbox"/>上記の主観的データをアセスメントできる</li> <li><input type="checkbox"/>フィジカル・アセスメントの方法について説明できる。</li> <li><input type="checkbox"/>心理社会的アセスメントの方法について説明できる。</li> <li><input type="checkbox"/>子供の健康課題を踏まえて、フィジカル・アセスメント、心理社会的アセスメントができる</li> <li><input type="checkbox"/>子供の健康課題とその関連要因を挙げる事ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>フィジカル・アセスメント</li> <li><input type="checkbox"/>精神の機能・認知・感情のアセスメント</li> <li><input type="checkbox"/>心理社会的アセスメント</li> </ul>
34 子ども（子ども達）の健康課題を明確にし、適切な保健教育を計画、実施、評価をする	3	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>学校生活の中で、子供の健康課題に応じた保健教育を受けられるよう、家庭内での調整を行うことができる</li> <li><input type="checkbox"/>健康診断や健康観察、健康相談の結果から子供の健康課題を明確化する方法について説明できる。</li> <li><input type="checkbox"/>子供が健康課題に対処するために生じる学校生活での支障を特定できる</li> <li><input type="checkbox"/>保健指導により学校生活や日常生活で実践できるケアを提供できる</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題に応じた健康教育の基本技術を理解し、方法について説明できる。</li> <li><input type="checkbox"/>学校生活の中で、子供の健康課題に応じた保健教育を受けられるよう、学校内で調整する方法を説明できる</li> <li><input type="checkbox"/>教職員を含めた支援計画づくり、および実践・評価ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>保健教育における家庭内の調整</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題の把握・明確化</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題によって生じる学校生活における支障</li> <li><input type="checkbox"/>健康課題に応じた保健指導</li> <li><input type="checkbox"/>保健教育に関する知識・技術</li> <li><input type="checkbox"/>保健教育における学校内の調整</li> <li><input type="checkbox"/>保健教育におけるPDCAサイクル</li> </ul>



看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
<p>35 子ども・保護者が自らの健康課題に主体的に参画できるよう機会・場・方法を提供する</p>	1	<p>□子供や保護者と信頼関係を築く方法を説明することができる。</p> <p>□慢性的な健康課題を有する子どもと家族の状態をアセスメントし、自己管理能力の向上に向けた支援方法について説明できる。</p> <p>□慢性的な健康課題をもつ子供と保護者のセルフケア能力、セルフケア行動をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p>□慢性的な健康課題をもつ子供と保護者のセルフケアを高める支援方法について説明できる</p> <p>□慢性的な健康課題を有する子どもの学校生活上の問題をアセスメントし、必要となる調整や支援を挙げることができる。</p> <p>□子どもや家族の意向を確認しながら、学習活動を維持するための支援方法を挙げることができる</p> <p>□学校生活管理指導書の意義、活用方法について説明できる</p> <p>□代表的な慢性疾患として、食物アレルギーなどアレルギー疾患を持つ子どもの学校保健上の課題と支援方法を説明できる</p> <p>□代表的な疾患として、心臓病、糖尿病、腎疾患を持つ子どもの学校保健上の課題と支援方法を説明できる</p> <p>□子どもにも発生頻度の高い慢性疾患（てんかんなど）を持つ子どもの学校保健上の課題と支援方法を説明できる</p> <p>□特別な教育ニーズを持つ子どもの学校保健上の課題と支援方法を説明できる</p>	<p>□子供と保護者との信頼関係の構築</p> <p>□慢性的な健康課題を有する子どもと家族のアセスメント</p> <p>□自己管理能力を高める援助技術</p> <p>□症状マネジメント、疾病管理</p> <p>□セルフケア行動の獲得・維持</p> <p>□セルフケア能力</p> <p>□セルフケア行動</p> <p>□セルフケアへの支援</p> <p>”□慢性的な健康課題を有する子どもと家族への支援</p> <p>□関係機関との調整</p> <p>□学習活動を維持するための支援</p> <p>□学校生活管理指導書</p> <p>□食物アレルギー</p> <p>□食物アレルギーをもつ子供と家族の学校保健上の課題とその支援</p> <p>”□子供の心臓病、糖尿病、腎疾患</p> <p>□心臓病、糖尿病、腎疾患をもつ子供と家族の学校保健上の課題とその支援</p> <p>□子どもにも発生頻度の高い慢性疾患（てんかんなど）</p> <p>□慢性疾患をもつ子供と保護者の学校保健上の課題とその支援</p> <p>□特別な教育ニーズ</p> <p>□特別な教育ニーズをもつ子供と保護者の学校保健上の課題とその支援</p>
<p>36 事故や感染症の対策および予防策を学校保健組織で講じる</p>	3	<p>□事故や感染予防の基本技術を理解し、説明することができる</p> <p>□リスク・マネジメント、有害事象（転落など）の事故などの予防方法について説明できる。</p> <p>□感染防止対策、スタンダードプリコーションについて理解し、実施することができる。</p> <p>□子供の状況に応じて学校生活で起こりやすい事故・感染症などを挙げる事ができる</p> <p>□予想される事故・感染症などについて学校組織内で対応を図るための手順や方法を説明することができる</p> <p>□学校安全計画の内容について説明することができる</p> <p>□生活安全（防犯を含む）、交通安全、災害安全（防災）への対策について説明できる</p> <p>□危機等発生時対処要領（危機管理マニュアル）について説明することができる</p>	<p>□スタンダード・プリコーション</p> <p>□リスク・アセスメント、リスク・マネジメントの方法</p> <p>□学校感染症の種類、予防、発生時の対応</p> <p>□学校安全計画の意義、文部科学省「学校安全の推進に関する計画」、立案方法、立案時の配慮事項</p> <p>□学校で発生しやすい事故</p> <p>□文部科学省「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」</p> <p>□危機等発生時対処要領（危機管理マニュアル）</p>
<p>37 緊急時に症状を冷静に判断し、緊急度をアセスメントし、必要な行動をとる</p>	4	<p>□子どものも身体的・精神的状態を把握し、緊急度を説明できる</p> <p>□緊急時の子供の全身状態をアセスメントし、基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p>□意識レベル、呼吸状態、ショック症状、出血状態、疼痛・部位のアセスメントの視点について説明することができる。</p> <p>□緊急時の疾患・病態・症状について説明できる</p> <p>□救命救急処置の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p>□緊急度に応じた学校における救急対応を挙げることができる</p> <p>□救急対応に応じた学校内対応を挙げることができる</p> <p>□子供に多い急性期症状（頭痛、腹痛、嘔気・嘔吐、便秘、下痢、発熱、ショック、意識障害、痙攣）と支援方法について説明できる</p>	<p>□フィジカルアセスメント（問診、バイタルサイン、視診、触診、聴診、打診）</p> <p>□看護診断</p> <p>□呼吸・循環を整える技術</p> <p>□創傷管理技術</p> <p>□救命救急処置技術</p> <p>□急性期症状の理解と支援</p> <p>□安楽の技術</p> <p>□危機介入</p> <p>□心配蘇生法とAED</p> <p>□学校内での救急対応</p> <p>□事後措置</p>

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
38 救急時には教職員間で連携して対応できるよう、リーダーとして適切に指示する	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 救急体制に関する学内組織を説明できる。</li> <li>□ 救急対応に応じた学校内・家庭・学校外に対する対応を挙げることができる。</li> <li>□ 事故などの再発予防に向けた学校内での対応を挙げることができる</li> <li>□ 教職員を対象とした救急法等の研修会やコミュニケーションの計画・実施・評価について説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学校における救急連絡体制</li> <li>□ 危機等発生時対応要領（危機管理マニュアル）</li> <li>□ 学校-家庭-地域における救急対応</li> <li>□ 再発予防</li> <li>□ シミュレーション研修</li> </ul>
39 特別支援教育の意義と生じている課題を理解して、必要時コーディネーターの役割を果たすことができる	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 特別支援教育の対象、意義を説明することができる</li> <li>□ 特別支援教育における学校での組織・支援システムを挙げることができる</li> <li>□ 特別支援教育におけるコーディネーターの役割を説明できる</li> <li>□ 特別な支援が必要な健康課題を挙げることができる</li> <li>□ 代表的な障害として、発達障害のある子供における学校保健上の課題と支援方法を説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 特別支援教育、特別支援教育の制度</li> <li>□ 特別支援教育における支援システム</li> <li>□ 特別支援コーディネーター</li> <li>□ 発達障害</li> </ul>
40 家族の習慣や生活に合わせた支援を行う	1	35に統合	
41 子どもや保護者の自己管理を支援する	3	35に統合	
42 子どもや家族の意向を確認しながら、学習活動を維持するための支援を行う	3	35に統合	
43 医療機関と連携を取り、学校で安全に安心して過ごせるよう、支援する	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 障がいや健康課題に関係する学校外の連携先とその役割を説明できる</li> <li>□ 教育-保健医療福祉サービスの継続性を保障するため専門職者間の連携について説明できる。</li> <li>□ 政策・保健政策について理解できる</li> <li>□ 復学支援が必要な子供の支援方法や関係機関との連携について説明できる</li> <li>□ 健康課題を持った子どもにも一貫した支援を行うための学校内外での調整方法を説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 保健医療福祉機関の連携・協働</li> <li>□ 復学支援</li> <li>□ 調整、コーディネーター</li> </ul>
V ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力			
44 子どもの健康状態の向上をめざして、教職員の支援能力の向上に寄与する	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 子どもの健康課題について学校生活において配慮すべきことを教職員に代弁する必要性を説明できる</li> <li>□ 教職員の子どもへの健康支援能力向上に向けた支援方法を説明できる</li> <li>□ 研修計画の必要性を説明できる</li> <li>□ 教職員の子供の健康課題についての把握状況のアセスメントできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 子どもの健康状態</li> <li>□ 教職員の支援能力</li> <li>□ 健康支援能力向上への援助技術</li> <li>□ 研究計画</li> </ul>
45 校内外の教職員・関係者と協議・調整を行い、チームで支援する体制を構築する（49を吸収）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 健康課題に応じた、校内の支援組織・体制について説明できる</li> <li>□ 健康課題を持った子どもへの支援組織の活動内容や方法について説明できる</li> <li>□ チーム学校における校内組織の中での養護教諭の役割について説明できる。</li> <li>□ チーム学校の中での実務として、情報の共有と守秘義務、健康課題をもつ子供を中心とするチーム学校の構築方法について説明できる。</li> <li>□ チーム学校の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。</li> <li>□ チーム学校の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。</li> <li>□ 学校外の支援と学校内の支援について連携・調整が必要な健康課題を挙げることができる</li> <li>□ 学校外の組織との連携・調整の方法を挙げることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 校内の支援組織・体制</li> <li>□ 校内の支援組織による活動内容・方法</li> <li>□ チーム学校</li> <li>□ チームの中での養護教諭の役割</li> <li>□ チームの中でのチーム員の役割</li> <li>□ チームの中でのチーム員の専門性と相互の尊重</li> <li>□ 情報の共有と守秘義務</li> <li>□ 相互の尊重・連携・協働</li> <li>□ アサーション</li> <li>□ カンファレンスの運営方法</li> </ul>

看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー	卒業時点の到達度	学修目標	教育内容
46	1	支援目的に応じた、校外組織や社会資源を活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 健康課題に応じた、校外の支援組織・社会資源を挙げることができる</li> <li>□ 学校外の地域社会資源を活用する方法を説明できる</li> <li>□ 学校外の組織と、学校内の組織を連携させる方法を説明できる</li> </ul>
47	1	学校内で医療的ケアが安全に実施できる環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 医療的ケアの安全な実施方法について説明できる</li> <li>□ 学校において医療的ケアを実施する上での留意事項を挙げることができる</li> <li>□ 学校における医療的ケアの法的根拠を説明できる</li> <li>□ 個別の支援計画の立案・実施の仕方について説明できる</li> <li>□ 子供のニーズに応じた個別の指導計画の立案・実施について説明できる</li> </ul>
48	3	虐待やいじめの疑いがある子どもに対して教職員と連携し、安全に配慮しながら支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 虐待やいじめの早期発見のためのポイントを挙げることができる</li> <li>□ 支援のモニタリングの必要性と方法について説明できる</li> <li>□ 国や自治体の虐待対策の取り組みについて説明できる</li> <li>□ 虐待やいじめを発見した際の学校内での支援組織や対応を説明できる</li> <li>□ 虐待やいじめを受けている子どもと信頼関係を構築できる</li> <li>□ 子どもたちの安全に配慮しながら、支援に必要な情報を収集する際の留意事項を挙げることもできる</li> <li>□ 虐待やいじめを受けている子どもと保護者と信頼関係を構築する説明ができる</li> </ul>
49	1	校内支援システムの構築に向けて、校内外の教職員・関係者と協議・調整を行う(45と合体)	45に統合
50	1	支援や対策の実施に向けて、教職員や関係機関と協働し、活動内容と人材の調整(配置・確保等)を提案する	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学校外の支援と学校内の支援について連携・調整が必要な健康課題を挙げることができる</li> <li>□ 学校外の組織との連携・調整の方法を挙げることができる</li> <li>□ 学校内外で連携して支援するプロセス(事例会議、支援計画の立案、モニタリング、評価など)を挙げることができる</li> </ul>
51	3	学校管理下での事故に関して、適切な事後措置を行うと共に予防対策を講ずる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学校管理下の定義・範囲を説明できる</li> <li>□ 生じやすい学校管理下の事故について説明できる</li> <li>□ 学校管理下の事故が発生した場合の対応について説明できる</li> <li>□ 再発防止に向けた対策を取る際の手順を挙げることができる</li> </ul>
52	3	特別な教育ニーズを持つ子どもへの心身の健康管理面での支援を行う(35と合体)	35に統合
VI 専門職者として研鑽し続ける基本能力			
53	1	教育研究などに参画し、養護教諭としての専門能力の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 校内研究、地域の学校保健(または養護教諭部会)研究の活動を通して養護教諭にとっての研究の意義を説明できる。</li> </ul>
54	4	養護教諭の実践に求められる知識・技術に関して、自己研鑽をめざすし、高い実践能力をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 養護実践の研究の意義・研究の方法</li> <li>□ 救急処置能力</li> <li>□ 指導力</li> <li>□ 授業力</li> <li>□ カウンセリング</li> <li>□ 根拠法令</li> </ul>

資料2 平成29年1月12日に養護教諭関係団体連絡会と文部科学省健康教育・食育課及び教職員課の話し合いで提案された省令改正案

\*今後、教員のコアカリキュラムの検討を踏まえ、養護教諭については「教育の基礎的理解に関する科目」の中で履修すべき事項などが明記される可能性がある。

見直し（案） □の事項は備考において単位数を設定				
	各科目に含めることが必要な事項	専修	一種	二種
養護に関する科目	衛生学および公衆衛生学（予防医学を含む。）	4	4	2
	学校保健	2	2	1
	養護概説	2	2	1
	健康相談活動の理論及び方法	2	2	2
	栄養学（食品学を含む。）	2	2	2
	解剖学および生理学	2	2	2
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	2	2
	精神保健	2	2	2
	看護学（臨床実習および救急処置を含む。）	10	10	10
教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	6	4
	ロ 教職の意義および教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）			
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携および学校安全への対応を含む。）			
	ニ 幼児、児童及び生徒の新進の発達及び学習の過程			
	ホ □特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（1単位以上修得）			
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
道徳、総合的な学習の時間等の内容および生徒指導、教育相談に関する科目	イ 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容	8	8	4
	ロ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）			
	ハ 生徒指導の理論及び方法			
	ニ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
教育実習に関する科目	イ □養護教諭実習（学校インターンシップ（学校体験活動）を2単位まで含むことができる）（5単位）	7	7	6
	ロ □教職実践演習（2単位）			
大学が独自に設定する科目		31	7	4
合計		80	56	42